

別冊 キャリアの 赤本 第二版

キャリアコンサルティング技能検定・キャリアコンサルタント試験対応
一問一答 問題・解説(2級と1級)

- 技能検定の学科試験過去問題を徹底分析して作成した約600問の「一問一答」形式問題と解説を掲載
- 最新の雇用・労働情勢の分析・データ、第10次職業能力開発基本計画・改正労働者派遣法・改正能開法など、今後の試験に出題が予想される内容の問題も多数提示
- 問題文は本試験と同様の文字数や形式にし、解説を充実させるとともに、科目・範囲・細目・項目ごとに、2級第15回までの学科試験で出題された問題数を☆の数で明示

一般社団法人 1級キャリアコンサルティング技能士の会

キャリアコンサルティング技能検定 学科試験合格

国家資格キャリアコンサルタント試験 学科試験合格

8. エリクソンは老年期の統合性とは、親としての役割を終えたり、職業的には退職することによって、来るべき人生の終わりに備えた人生の後始末をすることをいう。
9. **1級**：エリクソンは、成人期においては「親密性」と「世代性」が主たる発達課題であり、人生の最終的な発達課題は「統合性」であると考えた。

8. ×：老年期の統合性とは、親としての役割を終えたり、職業的には退職することによって、新しい役割や活動に向けての再方向付けを行うこと、つまり、もう一度人生を問い直し、新しい自己像を再形成し、価値観を再認識し再定義することをいう。統合とは、自分自身の人生に必然性を持ち、自分の人生は自分の責任であるという事実を受け入れることである。
9. ○：エリクソンは、青年期において形成された「アイデンティティ（自我同一性）」を基盤として、成人期には「親密性」と「世代性」が主たる発達課題であるとし、人生の最終的な発達課題は「統合性」であるとしている。

10 レビンソン (Levinson, D. J.)

2級：☆☆☆☆☆☆

【問題】

1. レビンソン (Levinson, D. J.) は、人の発達は、安定した「安定期」と各段階の境目にあり発達ステージにとって「危機」である「過渡期」を繰り返すとしている。
2. レビンソンは、青年期から成人前期への過渡期（17歳～22歳）は生活構造を確立する重要な時期であるとして、「人生半ばの過渡期」と呼んだ。
3. レビンソンは、40歳から45歳までを「人生最後の過渡期」と位置づけ、自己の内部や外界との関係における葛藤が生じる危機期であるとした。
4. **1級**：レビンソンは、中年期の「人生半ばの過渡期」の課題は、生活様式の主要要素を見直して新たな選択を試みることや両極性を克服することであるとした。

【解説】

1. ×：「過渡期」とは、2つの発達期を結び、何らかの連続性をもたせる発達上の時期であり、安定の基盤となる生活構造を修正しなければならなくなる時期である。換言すれば、この時期は、いったん立ち止まって自己と深く対峙し、自分とその周辺、環境をじっくり見つめなおすことによって、自己のキャリアをさらに質的に新しく発展させる自己再生のための「好機」といえる。
2. ×：レビンソンの「人生半ばの過渡期」は、年齢的には40～45歳であり、大きな発達期である「成人前期」を終わらせ、「中年期」を開始できるようにする役目をもった重要な時期であるとする。
3. ×：レビンソンは、40歳から45歳までを「人生半ばの過渡期」と位置づけ、中年期には「若さと老い」「破壊と創造」「男らしさと女らしさ」「愛着と分離」という対立が生じ、自己の内部だけでなく、外界との関係における葛藤が生じる危機期であると指摘している。
4. ○：レビンソンは、「人生半ばの過渡期」における発達課題として、生活構造の見直しと新たな選択（夢を修正する、職業を意味づける、若者の相談役になる、結婚生活を修正する）を試みることと、「若さと老い」「破壊と創造」「男らしさと女らしさ」「愛着と分離」のように、両立するのはありあえないと思われる、相反した状態が自己の中に共存していることを理解して受け入れ、統合していくことであるとする。